

アイリス Letter

保護者の皆様へ

2022年11月30日発行
第7号
広島女学院中学高等学校



聖書のことば

どうか主が民に力をお与えになるように。
主が民を祝福して平和をお与えになるように。

詩編 29 編 11 節

2学期も12月のみとなりました。11月の行事を無事に終えることができたことをうれしく思います。3日は、文化祭でした。保護者の皆さまもたくさん参観していただき、ありがとうございました。来年度は、一般のお客様を以前のようにお招きし、よりたくさんのお会いを持つことができるように祈ります。14日から19日は、キリスト教強調週間でした。15日(火)の特別プログラムの主題講演の講師には、姜尚中先生をお招きしました。

中学生は、「悲劇は喜劇より偉大なり」という言葉を教えていただきました。19日(土)の特別礼拝での生徒の発表を聴き、生きる意味をしっかりと考えた一週間であったことが伝わってきました。高校生は、「私たちは、ある時代、ある場所に生まれる。時代と場所は選べない。そういう今は、(今の社会は)過去によってつくられている。そして私たちは(私たちの社会は)どこに行くのか。」と問われました。そのことに向き合っていくために「政治ということが大切になってくる。」とメッセージをいただきました。高校の2階に、「the 女学院とキリスト教」と題したパネルが置かれ、このキリスト教強調週間を通して生徒が感じたこと書いた紙が貼られています。一つひとつのことばに、心を温かくしています。その中に、「選挙の投票に行く」と書かれていました。本当に大切なことですね。

2022年もあと1月となった今の社会を見ると、安心より不安なことが見えてしまいます。しかし、聖書には、いつの世も平和を求めていたことが書かれています。そして、その言葉から大切なものが与えられています。

学校には、27日からアドベント(待降節)ですので、イエス様の降誕のお人形が飾られました。校庭の木には、イルミネーションが灯りました。また、中学生の讃美歌コンクールの練習の歌声が聞こえています。この平安を与えられていることを感謝いたします。2学期の終業まで、健康に気をつけて歩んで参りましょう。

(校長)



キリスト教強調週間 (11/14～19)

主題「生きる意味」、主題聖句はイザヤ書53章1～10節のもと、15日は通常の授業に替えて、主題講演と学年ごとの特別プログラムが実施されました。

主題講演講師の姜尚中先生は、1950年、熊本県で在日韓国人2世として生まれ、政治学者として国際基督教大学や東京大学で教鞭をとられ、女学院と同じキリスト教学校の聖学院学長（東京）を務められた後、現在は、鎮西学院（長崎）の院長・学長をされています。『悩む力』などの著書がベストセラーになり、テレビや新聞でも広く活躍されています。若い頃、自分のルーツのことで悩んでいた時に支えてくれた牧師との出会いを通してキリスト教信者になりました。生徒に配布しているテキストに、朝日新聞で連載された先生の人生についての文章や、悩み相談への答え、最近の著作の抜粋などが載っているので、ぜひお読み下さい。

また、中高の各講演は生徒のクラスルームから視聴できます（1月初旬まで）。



高校の講演では、「人間は社会的存在であり、過去に規定されている。根本的に自由ではないのに、自由を前提としたグローバリズムのもと、自己責任という名の弱者の切り捨てが行われてきた。“生きる意味”とは内面世界だけで実現するものではなく、社会との関わり抜きにはありえない。ことばの真の意味での“政治”、他者と共に望ましい社会の在り方を決めていく仕組みに向き合うことが重要で、そこから生きる意味も見えてくる。」と、ウクライナや核の問題にも

触れながら、幅広く世界の情勢を踏まえたお話をしていただきました。

中学の講演では、夏目漱石やトルストイなどの作品に触れながら「人間は、自分ではどうすることもできない不幸に出会ったとき、物事を深く考える。人生の目的は幸福を見出すことではなく、不幸であっても深い意味があることを理解すること。学歴や知識の多さでは決して得られない“憧れ”を持ち、他者と“希望”を分かち合うこと、そこからはじめて人生の意味が見えてくる。」また、「今この時期に孤島に持っていきたい本と出会ってほしい。そのような本と出会うことで人生の奥行と広がりができる」と語られました。

昼食後の講師を囲む会には、高校チャペルに中高生が集まり、出た質問に丁寧に答えていただきました。

学年別活動では、「隣人と共に生きる」というテーマで、社会のさまざまな分野の講師の先生との出会いや具体的実践活動を通して考える時間を持ちました。

週間中の生徒の委員会企画では、高校はキリスト教徒関連する音楽放送、女学院とキリスト教をテーマとした先生方へのインタビューや動画の上映、そして、各クラスによる作品創作が行われ高校職員室前に展示されています。



中学は先生方へのインタビュー、学内のキリスト教絵画に関するクイズ、中学 YWCA 部によるハンドベルミニコンサートなどを行いました。

19 日(土)の閉会礼拝では、各学年から 2 名ずつ感想を発表し、それぞれが得たものを分かち合いました。講演録や代表生徒の感想は年度末発行の冊子『ガリラヤの風』にてご報告します。

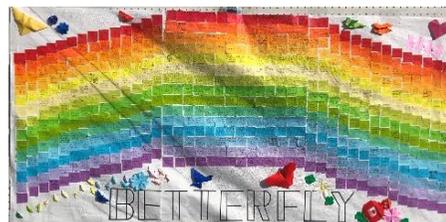


(宗教教育委員会)

2022 年度 文化祭

今年の文化祭は、家族だけでなく、小学生 600 人をお客様として迎え、11 月 3 日に開催しました。「牡丹に蝶」をテーマにかかげ、「牡丹のように絢爛に咲き、蝶のように美しく舞う」という目標を持ち、実施しました。3 年分の思いを込めて、日々の学校生活の中で築き上げてきたつながりをもとに、団結しつつ色鮮やかな個性が輝く文化祭となりました。

これほど沢山の方をお招きしたのは 3 年ぶりでしたので、生徒教職員一同、張り切って準備をしました。中学では、生徒全員の協力によるモザイクアートの制作に取り組みました。高校 HR や各部では、その特性・個性を生かした発表、展示や体験学習・ゲーム等があり、多くの来場者を魅了していました。華やいだ校内で、声を弾ませる生徒たちの姿を見ることができ、教職員一同、喜びを感じました。



保護者の皆様にも、楽しんでいただけたかと思えます。さまざまな制約がある中でしたが、ご来場していただき、感謝申し上げます。

また PTA の皆様、同窓会の皆様、お父さんの会の皆様にも文化祭を盛り上げていただきました。この場を借りて心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

～文化祭記念ファイル～

今年は、文化祭記念ファイルを作成し、生徒全員に配布しています。絵の作者、高校 1 年 C 組 N. H さんからのコメントです。

私たちは近年、様々な制限の中で日々を過ごしています。今の生活に息苦しさを感じている人も多いと思います。しかし、そんな中であっても花は美しく咲き、蝶は楽しげに舞います。変化の多いときですが、変わらないものもあるのです。今年のテーマは「牡丹に蝶」。たくさんのお話を教えてくれる自然に目を向けてみませんか。絵の中にちりばめられた幸福のシンボル、♡マークも探してみてください。



(中高生徒会顧問)

Oleander Program 一日米韓高校生交流事業

アメリカ政府の資金援助の元、アメリカの NGO である Oleander Initiative 主催で、日本、アメリカ、韓国の高校生対象の交流プログラムが実施されました。これまで Oleander Initiative は、主に中東、アメリカ、韓国の教員を広島に招き、戦後復興をとげた美しい街広島で学び、自国に戻って子どもたちに「希望がある」ことを伝える活動を行ってきました。

今回が初めての高校生対象の交流事業となり、日本からは本校高 1、高 2 生徒 6 名、アメリカからはオレゴン州の高校生 5 名、韓国からは忠南外国語高校の生徒 6 名が参加しました。

11 月 8 日～14 日のプログラム第 1 部では、アメリカと韓国の生徒が広島を訪れ、本校での交流会、ホームステイ、平和資料館の見学、碑めぐりなどを経験しました。

14 日に日米韓の参加者全員で韓国へ移動し、ホストファミリーの温かい歓迎の元、プログラム第 2 部をスタートさせました。4 日間の滞在中は、忠南外国語高校でプレゼンテーションを行ったり、またソウルでアメリカ大使館を訪問したり、市内観光をするなど、日本ではできないことを経験しました。

この研修を通して、参加者たちは互いの文化について学び、親睦を深めたのはもちろんのこと、「平和とはなにか」考えることができました。これからも交流を続け、それぞれの場所で、peace builder（平和を創る人）としての歩みを進めてほしいと願っています。

最後になりましたが、ホストファミリーを引き受けてくださった皆さま、授業、碑めぐり、交流会などに参加、協力してくれた皆さん、ありがとうございました。



(グローバル教育推進部)

大学模擬講義

10 月～11 月にかけて、以下の 4 つの大学模擬講義や説明会を実施しました。

- ① 京都大学経済学部（諸富徹教授）
- ② HICARE（放射線影響研究所 児玉和紀氏）
- ③ 国際基督教大学（ICU）模擬講義・説明会
（森島泰則教授）
- ④ 医学部説明会・面接対策
（富士学院 村田慎一統括本部長）



学年を越えてのグループワークなどもあり、普段の授業とは異なる体験ができました。
また、③・④は、保護者の希望者の参加もありました。(進路指導部)

中学讃美歌コンクール開催のお知らせ

12月16日(金)、ゲーンズホールで、中学讃美歌コンクールが開催されます。この時期、生徒たちの一生懸命練習する歌声が学校中に流れ、クリスマスを迎える女学院の風物詩となっています。

なお、感染予防の観点から密を避けるため、保護者の参観はご遠慮いただいております。ご理解いただきますようお願いいたします。合唱も公的な基準に従い、必要な間隔を取った上、マスク着用で行う予定です。(宗教教育委員会)

クリスマス献金のお願い

キリスト教の教会では、礼拝の中で神様への感謝のしるしとして献金を捧げます。女学院でも、毎年2学期末のクリスマス礼拝で「クリスマス献金」を捧げ、この1年間の恵みを感謝し、その恵みを“隣人”と分かち合うために、NGOや福祉施設などにお送りしています。2学期末に詳細を記したプリントを配布し、礼拝委員(中学)、宗教委員(高校)が各HRで呼びかけます。コロナ禍や戦禍などでいっそう厳しい状況に置かれている人々をおぼえ、支え合って共に生きるために、趣旨をご理解の上、保護者の皆様にもご協力いただければ幸いです。

(宗教教育委員会)

女学院クリスマスのお知らせ

12月21日(水)午後6時～7時00分(5時30分開場)、ゲーンズホールにおいて女学院クリスマスを行います。今年度も無制限の一般公開は控えますが、在校生希望者に加え、保護者の皆様・卒業生・小学生とその保護者は、事前申し込み制(※)でご参加いただける礼拝です。共にクリスマスをお祝いしましょう。

立野泰博牧師(日本福音ルーテル広島教会牧師、本校聖書科非常勤講師、2020年度キリスト教強調週間主題講演講師)からクリスマスのメッセージをいただきます。み子イエスの誕生までの出来事を、絵本『星のよる』とライアー(豎琴)の調べと共にたどります。

高校放送部(聖書朗読)、高校宗教委員(司会・祈祷)、高校YWCA部(受付・献金係)、中学YWCA部(ハンドベル)、など生徒の皆さんが協力して下さいます。

なお、入場は無料ですが、会場で席上献金(NGO・社会福祉団体などへの寄付)のご協力をお願いしています。

終了が下校時間を過ぎることをご了解の上、中学生が参加する場合は、必ず保護者同伴か、お迎えをお願いします。

※申し込みについては、さくら連絡網とHPで詳細をご連絡します。



(宗教教育委員会)

第36回クリスマスコンサート・メサイアの開催について

12月18日(日)にゲーンズホールを会場として、メサイアコンサートが開催されます。2019年から3年ぶりに、クリスマスをお祝いするメサイアを開催できることを心よりうれしく思います。指揮者は、前校長星野晴夫先生です。また、合唱とオーケストラには、高校生や卒業生も参加します。

コロナ禍でありますので、感染対策のため、曲数を制限し時間を縮小しています。また、入場者を制限して開催いたします。事前申し込み制です。ご希望の方は、学校法人広島女学院のHPから申おし込みください。尚、演奏会当日は、ライブ配信を行う予定です。(校長)

保健室だより(7)

冬が近づき、段々と寒い日が増えてきました。保健室では、寒さを原因とした不調を訴える生徒も少なくありません。寒さを乗り切るためには、食事、運動、入浴、服装の工夫をおすすめします。旬の食材を取り入れてみたり、シャワーだけでなく湯船につかってみてください。また、首、手首、足首の「3つの首」を冷やさないことも大切です。「3つの首」には、体中をめぐる血管が集中しているので、温めると体の内側からぼかぼかします。

冬場は空気が乾燥し、暖房器具も多く使用するため湿度が低くなります。適切な湿度(40~60%)を保つため、加湿器の使用や濡れたタオルを干すと良いでしょう。空気の乾燥と同時に体も乾燥しやすくなるため、夏と同様、こまめな水分補給ができるように水筒等を持参させてください。また、お子さまは体だけでなく心の乾燥はしていませんか。

少しのことでイライラしてしまったり、集中できなくてボーっとしたり、落ち込んでいる時は、お子様と一緒に温かい飲み物で水分補給をされ、ゆっくりとした時間を過ごしてあげてください。(保健室)

心の健康(7)

ストレス解消のヒントです。今回は STRESS の5文字目の S=Sleeping・睡眠を十分にとろう!です。

眠りは、一晩に「深い時」と「浅い時」を繰り返しています。深い眠りから浅い眠りに移るのは、眠っているながら、起きている時の記憶を整理しているらしいのです。そのおかげで、起きている時の脳の働きが活発になるのだそうです。浅い眠りがだんだん深くなり、再び浅くなるまでのサイクルは90分~100分で、寝ている間に、このサイクルが4回ほどあるのが良いそうです。

ストレスが解消し、心身ともに健康な生活を送るためには、一晩に90分×4サイクル=6時間。サイクルを考えながら1日6時間はきっちり眠りましょう。

寒さが増し、体調を崩しやすくなっています。ゆっくりと快適に眠れる工夫をして心身ともにスッキリした朝を迎えましょう。(カウンセラー)



生徒の活躍

◇中高マンドリン部

第45回広島県中学・高等学校ギター・マンドリンフェスティバル 優秀賞・朝日新聞社賞

◇高校理科部

広島県科学賞 広島県教育委員会賞「太田川放水路における海水の遡上」

2-A K. A 2-D W. C 2-C S. A 2-C Y. R

2-B N. K 2-B Y. Y 1-C K. A 1-E W. M

1-E H. N 1-E J. S

◇令和4年度広島県科学オリンピック 銅賞 広島県教育委員会賞（3位）

2-B K. C 2-B T. M 2-B N. R 2-B K. M

2-B Y. Y 1-C K. A

◇高校卓球部

第68回広島県高等学校新人卓球大会（学校対抗の部）B級5位入賞



今月の聖句

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」

（ヘブライ信徒への手紙 11章 1節）

今月は様々な学校行事が行われました。例年通りとは言えないものの、3年ぶりに一般の方をお招きした文化祭は、展示・公演のプログラムを通して訪れた多くの方々へ感動を与えるような一時となりました。特に文化祭終了後の片付けの際には、誰もが秩序の下で力を合わせた協力をしながら行われました。文化祭の裏側、即ち目に見えない処での誠実さを通して、見えない事実を確認することもできました。「見えない事実」とは、今を精一杯生きている生徒たちが、イエス・キリストの望んでおられた御旨であることです。言い換えると生徒一人ひとりの「生きる意味」が、生きる希望が失われつつある今の時代における「望んでいる事柄の本質」であるように感じました。

こうした学校行事に対し生徒たちが望んでいたその事柄は異なりますが、お互いの存在を通して望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することを体験することができる恵みの一時であったと確信しています。「望んでいる事柄」とは、その時代と場所における普遍的な価値観に基づく事柄ではなく、差別と偏見の下でも「幸いなもの」として生きようとする「社会的な弱者」における「生きる意味」でもあったのです。山上の説教の中で、「幸せ」の条件が一つもなくとも「幸いなもの」として生きることを自ら示されたイエス・キリストの教えと行いは、望むことさえ与えることのできなかつた人々へ齎した「信仰」であります。女学院も「望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認する」ような存在として受け継がれていたその召命を、今後もそうした信仰の下で繋いでいくことを願っています。

（聖書科K）

12月の行事予定

1	木	
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	期末テスト(高3)
6	火	(高1・2)1限8:55～
7	水	(中1・2・3)1限8:55～15分休憩
8	木	1限8:55～15分休憩
9	金	1限8:55～15分休憩 高3自宅学習日 女学院大学キャンパス見学会
10	土	高3駿台共通テストプレテスト
11	日	
12	月	自宅学習日(中1～高2) 高3テスト返却
13	火	テスト返却(中1～高2)
14	水	高3特別時間割 [NC] 高3期末テスト素点確認
15	木	特別時間割 1限8:55～ (高)健康教育 期末テスト素点確認(中1～高2)
16	金	高3自宅学習日 (中)讚美歌コンクール
17	土	
18	日	メザイア
19	月	
20	火	(中)クリスマス礼拝リハーサル
21	水	終業の日 クリスマス礼拝 女学院クリスマス 面接・補習
22	木	
23	金	
24	土	
25	日	クリスマス
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	特別休暇
30	金	
31	土	

NC・・・ノークラブデー

※行事予定は変更になることがあります

